

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373000906		
法人名	株式会社ひかりサービス		
事業所名	グループホームジョイア永覚 本館		
所在地	豊田市永覚町欠畑20-1		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	令和3年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2373000906-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は新型コロナウイルスが蔓延し、利用者様の生活が激変しました。外出ができない中、季節感を出すために壁に季節に合った飾りをしたり、外食ができないので、お弁当の日、菓子パンの日、バイキング、花火等レクリエーションの充実に取り組みました。地域とのつながり、家族とのつながりが途絶えてしまい電話や手紙、ガラス越しでの面会を行っています。前の生活に戻る日まで利用者様、職員と頑張っており、まいります

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、ユニットで建物異なっているが、本館ユニットは広めのフロアが確保されていることもあり、共用型デイサービスが行われており、地域で生活している利用者の支援が行われている。職員間で利用者を担当しながら、一人ひとりに寄り添った支援の検討が行われている。利用者が住み慣れたホームでの生活を継続することができるように、医療面での連携も深めながら、利用者がホームで最期を迎えることができるような支援も行われており、利用者、家族の安心感にもつながっている。また、当ホームの運営法人は、複数の介護事業所を運営していることで、事業所で連携した取り組みが行われている。関連事業所との連携を深めて、定期的な幹部会議や委員会活動が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映したり、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時に毎朝理念を唱和しています。あじさいの理念も唱和しています。「その人らしく」は職員に浸透してきています	運営法人の基本理念を支援の基本に考えながら、日常的に職員間で理念の唱和を行い、意識向上につなげている。また、ホーム独自の理念も考えており、理念をホーム内にも掲示し、日常の振り返りにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方が野菜を施設までもってきてくれたり、散歩に出かけていた時は、挨拶を中心にコミュニケーションをとっていました。	感染症問題があることで、地域の方との交流は困難になっているが、例年は、地域で行われている行事やボランティアの方を通じた交流が行われている。また、近隣の福祉事業所との交流の機会をつくる等の取り組みも行われている。	地域の方との交流が中断している状況でもある為、感染症問題が落ち着いた際には、地域の方との交流の機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で認知症カフェには参加できません。運営推進会議の時間にお話しはさせて頂いていますが、3月から会議を中止しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	市役所にお聞きし3月からは電話や手紙などで、推進委員の方とやり取りをさせて頂いています。活動報告は写真にして推進委員の方に渡したいと思っています。	会議の際には、地域の方の参加が得られていることで、会議を通じて地域に関する情報交換の機会にもつながっている。また、会議に合わせて運営状況を記載した資料の配布を行っており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市役所の方へは、分からない事を聞いたり、相談したり、事故報告の時など、助言を頂いている	市内の介護事業所が集まる毎月の連絡会議や研修会等が行われる際には、ホームからも参加する機会をつくり、情報交換等につなげている。また、地域包括支援センターとも、地域ケア会議等を通じた交流の取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新館は構造上死角になってしまう為玄関に施錠がしてある。身体拘束の研修や身体拘束未実施減算会議を開き職員全員に啓蒙している	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、玄関の施錠についてはユニットにより対応が異なっている。また、身体拘束に関する委員会の際には、利用者一人ひとりの現状確認を行い、職員研修も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎年、事業所全体で虐待の聞き取りを行っている。不適切ケアの段階で指導し施設長にも報告を行っている。研修も年に2回行い職員全体で把握し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	新館で1名なごみの会の方が入ってみえる。この方は身寄りがない為身元保証をもらっている。本館では現在ありません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間をかけて説明し理解を得ている。法改正の時なども十分に説明し同意書も頂いている。家族様の質問やご不明な点にもお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からの意見は面会簿に記入欄があり、そこに書いて頂いたり、直接お会いした時に伺うようにしている。運営推進会議の場でご家族様からの意見も頂き反映している。外部評価機関のアンケートからの意見も反映している	例年は、家族にホームの行事の案内を行っており、交流の機会をつくっている。運営法人でアンケートを実施し、家族からの要望等の把握が行われている。また、毎月のホーム便りの作成が行われており、利用者一人ひとりに関する報告も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見にも耳を傾けている。常勤職員は職場の改善などを毎月あげていて代表者も目を通していている。いい面が職場に反映できている。毎月の会議の時にも意見は出ていて事務局と共有している。	毎月の職員会議や日常的に行われている情報交換等を通じて、管理者が把握した職員からの意見等は、運営法人の幹部内等を通じて、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による定期的な職員面談も行われており、職員の把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	福利厚生に会社は力を入れている。リフレッシュ休暇などがあり職場環境は以前より改善されている。給料面も個々の年齢・実績・就労期間等を加味してくれている。職員も意見を出しやすい環境にある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者やリーダーは、会社の研修に参加し現場に反映している。職員は年6回の研修カリキュラムがあり参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職員は社協や市役所の研修を通して他事業所と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	実地調査の時に本人の要望や日常生活習慣、趣味などを聞いて不安のない生活を送れるよう努めている、入居後でもその都度ご家族様から情報を頂きよい関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の困っている事や不安に思っている事などをお聞きしサービス向上につなげ初期プランに組み込んでいる。またこまめに連絡を取り合いよい関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時に求めているニーズに対応できるように年2回アセスメントを取りその時々で対応もしている。特養などの申し込みも提案している。本館は通所も行っているの、グループホームの申し込みなど受け付けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常にご利用者様と生活をしている事を念頭におき孤立する事なく良い関係を構築している。毎朝の挨拶は全員と行き、帰りの挨拶は「お疲れさま」や「帰る」と言う言葉は使わないようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の手紙でご利用者様の状況をご家族様にお伝えし面会の時は相談させて頂いている。家族様と共に利用者様のケアについて話し合いをもっている。認知症の勉強会の中で大切な家族様を預かっている事、絆を閉ざす事なくケアに当たる事を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人の方が訪ねてくる事は、ほとんどない。馴染みの店には体の動きが悪くなり行けていない	利用者の入居前からの関係継続は徐々に困難になりつつあるが、利用者の中には手紙等を通じて、交流を継続している方がいる。また、例年は家族との外出も行われており、家族との喫茶や買い物をはじめ、自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士、仲良くされている方は近くの席にしたりポツンとされる事がないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	現状、看取りなどでお亡くなりになられた方は、葬式後は合う事はない感じです。利用が中止になっても関係は続いている方もみえます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室で塗り絵や鶴を折ったりする方は、部屋の環境を整えたり、毎日違う生活を送れるよう柔軟に対応している	職員間で利用者を担当する取り組みや利用者毎に分けられた支援経過ノート等も活用しながら、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、毎月のカンファレンスも行われており、意向等を日常の支援につなげる検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や利用していたサービス等をアセスメントの時にご家族様に聞き情報として把握に努めている。職員全員がアセスメントを回覧する事になっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本館はできる方が増えてきているので、その方ができる事をお願いし、お手伝いがかぶらないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日頃の関わりの中から利用者様の情報は共有するように努めている。また面会時に家族様からの要望も聞きプランに挙げている。永覚ではセンター方式のシートを使い介護計画に反映している。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも介護計画に関するチェック表に記録を残しており、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援経過記録を個別に作り、小さな事も記入するようになってきている。職員は出勤時に支援経過記録をみて情報を把握しケアに活かしている。ケアプラン実施記録に毎月のモニタリングを記入し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度新たな課題について対応できるように取り組んでいる。今は、他サービスを使っている方はいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	1人1人の地域資源の活用は現在は難しくなっているが、事業者を取り巻く地域資源は活用していたが、コロナ禍の中では外出もできず孤立している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医や看護師とは、常に連携を図り適切に医療が受けられるように努めている。主治医以外の受診は、家族様にお願ひし行ってもらっている。必要に応じて手紙を書いたりして状態が伝わるようにしている。	協力医による定期的な訪問診療が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については、家族による対応としているが必要に合わせた職員による対応も行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	経過支援記録を中心に介護職員が持っている情報は看護師とも共有し受診につなげている。看護師からのアドバイスも介護現場に活かしている。毎週来る日が決まっているので、管理者もできるだけ日にちを合わせて伝えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良時には、主治医に相談し早期に適切な医療が受けられるよう入院し、また退院に向けても病院関係者ソーシャルワーカーと密に連携を取り早期退院につなげている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りや重度化した場合の事は契約時に説明している。永覚で看取りと言われた方が5名見える為家族様と話しあい納得し同意書を頂いた。状態が変化した場合等は主治医や看護師に指示を仰いでいる	身体状態が重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、ホームでの看取り支援も行われている。協力医との連携を深め、家族との話し合いを重ねながら、次の生活場所への移行利用者、家族の意向に合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防の方に来て頂き全員が参加し救命蘇生法を学習した		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	水害、火災、地震の訓練を2回づつ行っている、夜間を想定した訓練のシュミレーションは夜勤に従事する職員に管理者から伝えている、近隣管理者が立ち会いを行っている	避難訓練については2か月毎に、火災、地震、水害を想定しながら行われている。当ホームは、建物がユニットで離れていることもあり、通報訓練等の際には、ユニット間で連携した対応も行われている。また、複数の場所に備蓄品の確保が行われている。	地域の企業から、物資の寄付をいただく等、地域の方との協力関係も行われている。非常時における地域の方との継続的な関係づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様に対しての声かけは1人1人の尊厳やプライバシーに配慮し行っているが、チーム全体で支えられるよう会議などで話し合いを行って次につなげている	運営法人の委員会で定期的につくられている接遇に関するスローガンを職員間で振り返る機会をつくっており、利用者への対応や言葉遣い等を振り返る機会につなげている。また、管理者が気づいた際には、日常的に注意を促す取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定を尊重している。2名以外の方は、ご自分で決める事ができるのでゆっくり話しを聞いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様優先は、頭ではわかっているが、業務優先になっている事もある。今はコロナ禍の為、思いに沿った支援できないが、できる事はやっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝は全員分の顔拭きタオルを用意し、職員が髪の毛を整え、整容に努めている。指輪等をされている方も多くおしゃれには気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様と食事を作ったり盛り付けをしてもったり能力を活かしながら毎日を過ごしている。片付けをされるときも職員も加わりおこなっている	メニューについては、ユニット毎に職員で考えており、利用者の好みや嗜好等にも配慮している。利用者もできることに参加する機会がつけられている。また、身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている他にも、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェックが必要な方はおこなっている。コーヒーが好きな方が多い為10時と15時はコーヒーも含め選んでもらっている。終末期で栄養の足りていない方は主治医よりエンシュアが出ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、個々に合った口腔ケアをおこなっている。うがいのみの方もみえるし伝わらない方もみえるが洗面所にはきてくださるので、声掛けはしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	1人1人の排泄パターンを把握し1名は看取りの方をベットの交換しているがその他の方はトイレでの排泄をおこなっている	利用者全員の排泄記録を残し、利用者毎に分けられた支援経過ノート等を活用しながら、職員間で利用者一人ひとりに合わせた排泄につなげる取り組みが行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、利用者の排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、牛乳を飲んで頂いている。またフルーツをメニューに多く取り入れ食事は柔らかい物を提供している。便秘の方は下剤を服用されている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	2人介助の方もその方の体調にあわせて入浴して頂いている。早く出られる方・長湯の方・個々で対応を行っている。看取りの方もシャワー浴を行い体に負担のないようにしている。皮膚が弱い方は手で体を洗っている	毎日の入浴の準備が行われていることで、利用者の希望や入浴を拒む方への対応等にも、柔軟な支援が行われている。利用者の身体状態に合わせた入浴も行われている。また、入浴剤を使用したり、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本館は、ご自分のタイミングで居室に行かれる方が多い。車いすの方は19時頃に居室誘導させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期に処方される物以外は理解出来ていない。誰がどんな薬を服用しているか少しでも把握できるといいと思う。服用できない場合は主治医と相談して意見を頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様には、それぞれ役割りがあり自信を持ってやって頂いてる。好きな物を買って食べて頂いている。食事のレクを多く開催し気分転換に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナ禍もあり出来ていない。ホーム内で楽しめる工夫をしている。毎年の行事も縮小して行っている	感染症問題があることで、利用者の外出は困難になっているが、近隣を散歩したり、関連事業所から自動車を借りて外出する機会がつけられている。また、例年は、関連事業所との合同の外出行事にも参加する等、利用者の外出につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際は、できる人には、お財布を渡して本人様にお支払をして頂いている。本館は個人でもってもらえる方はいないので金庫で預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族様に電話をかけてほしいと言われる方には、こちらからかけて話しをして頂いている。手紙も家族様から届くので本人に渡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本館は玄関も乱雑になっていた為、大掃除を行った。これからは年4回大掃除を行っていきたい。光や音、臭いに配慮した空間にしている。ソファも新しくなりウトウトされる方も見える	ユニットでホーム建物が異なっていることで、建物内の構造や雰囲気等が異なっており、ユニットに合わせた生活環境がつけられている。本館ユニットのフローアが広めの空間がつけられていることで、合同の行事は本館ユニットで行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方同士がソファに座り会話をされていたり、少し離れたところでくつろげる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族様が、入居の時にもってきて下さるが、家族様の好みの物が増えてきている。居室が居心地よくなるために利用者様と一緒に配置換えを行う事もある	居室については、利用者や家族の意向に合わせた好みの物等の持ち込みは行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中には、ベッド以外で生活している方もあり、利用者に合わせて対応も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動きやすい動線を考えフロアを安全に歩行できるようにしている。ホーム内の表示も大きくわかりやすくしてある		